

多様な視点×減災対策

～多様性を認めあい誰もが自分らしく生きることができるまち～

topics

- 1 特集 私が力を発揮する減災対策
- 2 性の多様性 オンライン講座「ダブルハピネス～辛さが2倍なら楽しさも2倍～」



特集

私が力を発揮する減災対策



令和4年度の啓発テーマは、昨年度に引き続き「多様な視点×減災対策」として、多様な立場の人が減災・防災に関わることの必要性について考えました。

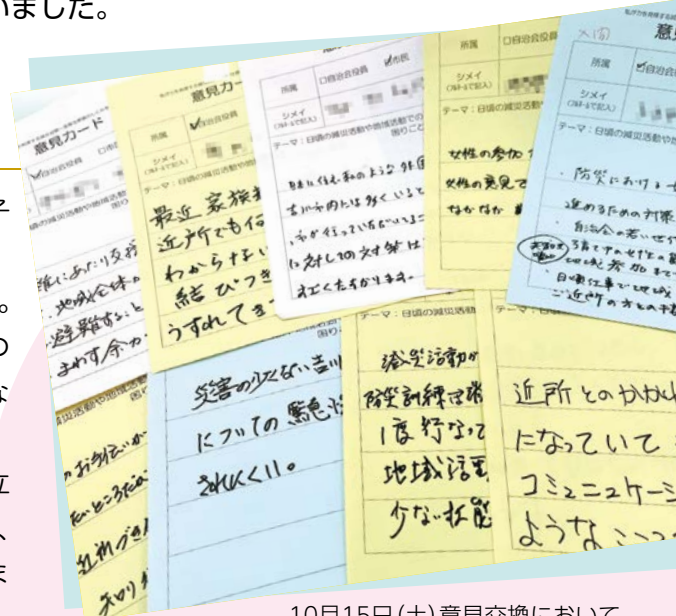
10月15日（土）第1弾として「私が力を発揮する減災対策」をテーマに、県男女共同参画推進センター職員による講義や、意見交換を行いました。12月19日（月）第2弾として「多様な参画のしくみを考える」をテーマに、第1弾の参加者から6名が、市長とともに座談会を行いました。

今、多様な人の参画はできている？

私たちの地域には、多様な人々が暮しています。高齢者、乳幼児、子ども、障がいのある人、妊産婦、外国人…。

性別や立場が違えば、暮らしの中で必要な住環境やサービスも違います。災害時にも同じことが言えます。過去の大きな災害では、多様な立場の方への配慮が十分ではなかったため、乳幼児や高齢者、女性や外国人などが災害の影響を大きく受け、困難を増し被害が拡大しました。

この問題は、当事者やその支援者でなければわかりません。多様な立場の人たちが共に「誰も取り残さない減災」を考えていく取り組みは、災害時に命と暮らしをも守るだけでなく、その過程で地域づくり、まちづくりとなり、日常の暮らしやすさに繋がります。



10月15日（土）意見交換において、参加者から提出のあった意見カードの一部



座談会

(左後列より)

中原恵人市長

浅野富美枝さん：市の男女共同参画審議会会長や防災会議委員を務める有識者

岡田 宏美さん：吉川市国際友好協会理事、埼玉県地域防災指導者、防災士

土屋真智子さん：三輪野江小学校PTA会長、

令和3年度男女共同参画啓発イベント参加者

(左前列より)

澤登真珠枝さん：中曽根自治会会長

田島三枝子さん：吉川団地自治会役員

氣仙絵里奈さん：関小学校PTA役員



市長：女性や男性の平等だけではなく、障がいの有無、年齢の違い、外国人住民、性的少数者など、すべての人を含めた「多様性のある共同参画」が今後の目指すところだと思っています。今日は、そうした視点を踏まえて、減災対策における多様な参画についてご意見を伺いたいと思います。

女性の参画が多い 中曽根地区

澤登：中曽根小学校区域の6自治会で

「中曽根小学校区減災プロジェクトX」を実施し、約120人が参加しました。想定災害を「浸水」としたため、避難場所は体育館ではなく教室。参加者からは「自分たちが実際に避難できる場所を、身近に知ることができた」「学校によって事情も様々だと思うが、避難場所として使える教室はどこか、早期に授業を再開するために、音楽室などの特別教室を利用することを知った」という感想がありました。また、簡易トイレや簡易ベッドの組み立てのほか、防災倉庫の災害備蓄品を確認し、備蓄品がいかに少ないかを実感しました。災害時は一人ひとりの備えが必要であることを認識しました。



市長：今回、女性の参加がとても多いと感じましたが、女性の参加を促していたのですか？

澤登：特に促しておりませんが、中曽根自治会はかねてより女性の参画が多く、その風潮が根付いていると思いま

す。当日も半数以上は女性でした。

浅野：女性の参画が多い地域は、おのずと女性に対する偏見もなくなっていくのでしょうか。

平時から繋がることと 繰り返しが大事

市長：吉川団地自治会では、以前からベトナム人住民の皆さんとのコミュニケーションのため尽力されていますね。

田島：吉川団地自治会で防災訓練を行った際、ベトナム語・英語に翻訳したポスターを各棟の階段下に掲示したところベトナム人家族の参加に繋がりました。公園のベンチが災害時に釜戸になることや、マンホールトイレにとっても驚いていました。資機材の組み立てにも参加してもらって、少しでも防災のことを理解してもらえたと思います。また、外国人住民の生活情報の収集は主にSNSと聞きます。外国人住民とも普段から繋がるのが課題です。今回の参加者に、今後の自治会イベント(1月の餅つきなど)を声掛けしながら、少しずつでも参加を増やしていきたいです。

市長：災害時と平時を繋ぐことがポイントですね。

浅野：平時にできないことは、災害時でもできない。繰り返し行うことが大事ですね。



外国人住民や子どもに 向けた発信

市長：岡田さんが理事を務めている国際友好協会では、外国人住民に向けた情報発信は行っているのでしょうか。SNSを情報元としている外国人住民向けに、平時は市内のお店情報、時々、減災のことや、110番通報などの生活情報を掲載できればと考えますが。

岡田：協会のホームページがあるので、外国人住民に向けた色々な情報が発信できるよう工夫していきたいと思っています。また、私は防災講座で講師をしますが、ほとんどの人が災害用品を備えていない。避難所に行けば助けられると考えている人がほとんどです。外国人に限らず、関心を持ってもらうことが重要です。私の家には以前小舟がありました。キャサリン台風によって栗橋で江戸川が決壊した時、屋根に避難し小舟で親戚宅に避難したとのこと。このような話を子どもたちに伝えることによって、子どもが興味をもち、家庭で会話することで大人が興味を持つ。減災教育は子どもの時期から始めるのが良いと思います。



よりイメージしやすい 啓発

氣仙：災害に対する市民の危機意識が私も含め低いと感じています。吉川市は海も山もないので、自然災害で心配なのは河川の氾濫。既に啓発のための情報を発信しているはずですが、特に若い世代には届いていないと思います。具体的な災害のイメージを伝えられるものがあると良いですね。PTAだよりを発行しても、読んでもらえない悩みがあります。インパクトのある伝え方ではないと関心を持ってもらえないと思います。

市長：水害は、予め情報を得ることができるので、一人ひとりが早めに準備できれば、必ず命を失うことなく避難できます。例えば大きな河川が決壊した場合、2日程度かけて徐々に4-5M浸水するのでその間に財産を持って避難する。水が引くまで早くても3日、長くて1週間くらいかかるので、その間の食事や日用品を自分で確保することができれば命を守れます。これを、若い世代の方々に、ビジュアル的視覚で届けられる何かを考えたいですね。

浅野：市内の郷土資料館には、小舟が展示されています。吉川市は、古くから水害が多かったので、どの家にも小舟あったそうです。また、市内には水害に関する石碑等の歴史も残っています。このようなものを見たり、実体験など直接話を聞いたりする機会があるといいですね。

親子で楽しめるイベントや セミナー

土屋：今「ジェンダー平等」と言われている中で、何故まだ「男女平等」の問題がなくなるのだろうと疑問に思い調べてみました。内閣府のガイドラインには、男性は仕事、女性は家庭というような性別を理由とした分担意識が根強く残っていることが書かれていて、私も周りのお母さんたちも実感しています。例えばPTAの会議や行事に参加する時に、子育ては夫婦で行っているのに、家族の許可を得なくてはならないこと。今は、家族に少しずつ理解してもらい、自分の時間を獲得できるようになりましたが、このような問題につまづいている人が多いから、多様な方の参画が進まないと思いました。解決策の1つとして、男性の意識も変



えること。女性が活躍できる場があることを男性に知ってもらう機会。例えば男性が家事や育児に積極的に参加できるようなセミナー。また、親がやっていない習慣は、子どもに根付かせることは難しいです。子どもを家に残して母親だけが参加するのはハードルが高いので、親子で参加できるイベントやセミナーがあると良いですね。例えば市民体育祭で資機材を組み立てる種目があると、親子で楽しみながら学べますよね。

市民も行政も共に取り組む 減災対策

浅野：皆さんからのご意見に希望を持てる気持ちになりました。皆さん、力もアイデアもお持ちで、これが実現できれば地域や社会が変わっていくことでしょう。防災・減災の自助・共助には限界があると思っています。首長が意欲的・前向きだと、アイデアやしくみの実現の力になると思います。行政には、市民の意欲を実現するためのバックアップを是非お願いしたいと思います。

市長：今日は、皆さんから前向きなお話や提案が多く、大変うれしく思いました。本日提案された意見を皆さんと共に実現し、減災に限らず、多様な立場の方の参画によって、多様なあふれる吉川市を目指してゆきたいと思います。



“減災”と“防災”

～災害は防ぐことはできないが、
被害を減らすことはできる～

これまで大きな自然災害によって、被害に遭った自治体の首長はいずれも「行政がすべての市民の命を守れるなんておこがましい。『行政だけでは市民の命・財産を守れません』と伝える勇気が、逆に市民の命を守ることに繋がる」「災害は防ぐことはできないが、被害を減らすことはできる」と話されています。

このことから吉川市では、謙虚な気持ちで災害に立ち向かうとの思いで、「防災」ではなく「減災」という言葉を用いています。



ダブルハピネス

～辛さが2倍なら楽しさも2倍～

2006年、本の出版という形でトランスジェンダーであることをカミングアウトして以来、全国の当事者からのメールが殺到しました。誰にも言えない悩みを抱える当事者たちと一緒に歩みながら、自身も恋愛・就職・法律といった様々な壁にぶつかる日々。しかし、そんな壁すら楽しみながら過ごす毎日。本講演では、LGBTQをはじめとするセクシャル・マイノリティに関する正しい知識だけでなく、セクシュアリティと向き合い、苦難を乗り越えてきた自身の経験をもとに、誰もが抱えるそれぞれの「生きづらさ」を乗り越えるヒントをお伝えしていきます。

配信期間

令和5年3月1日(水) 午前9時から令和5年3月31日(金) 午後9時まで

視聴方法

吉川市公式ホームページからご視聴いただけます。（外部リンク）
○動画視聴に必要な通信料は、視聴される方のご負担となります。



主催：吉川市 共催：(公財)明治安田こころの健康財団 後援：明治安田生命保険相互会社
※吉川市と明治安田生命保険相互会社と健康づくりにおける連携・協定を結んでいます。



NPO法人
東京レインボープライド 共同代表

杉山 文野 先生

【略歴】

1981年東京都生まれ。
フェンシング元女子日本代表。
トランスジェンダー。
早稲田大学教育学研究課修士課程修了。
日本最大のLGBTプライドパレードであるNPO法人東京レインボープライド共同代表理事や、日本初となる同性パートナーシップ制度に係る「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」の制定に関わり、渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員も務める。
2021年6月から(公財)日本フェンシング協会理事、
日本オリンピック委員会(JOC)理事に就任。
現在は父として子育てにも奮闘中。

吉川市パートナーシップ宣誓制度

吉川市では、お互いを人生のパートナーとする2人が、日常生活において相互に協力し合うことを約束した“パートナーシップ”の関係であることを、市に宣誓し、市が証明書類を交付する『吉川市パートナーシップ宣誓制度』を創設しています。



この制度によって、性的指向又は性自認に係る性的少数者の生きづらさや困難を軽減するとともに、この制度の理解が進み、パートナーシップの関係が尊重される取り組みが広がっていくことを期待しています。

詳細は市ホームページをご覧ください。



ひとりで悩んでいませんか？

家庭のこと、夫婦のこと、交際相手のこと、
自分の生き方など…
あなたと一緒に感じ、考え、サポートします



女性総合相談 女性が抱える悩み全般

予約電話 982-9458（市民参加推進課）
原則第2・第4月曜日 午後1時／2時／3時 各50分
市民交流センターおあしす1階ミーティングルーム
相談専用電話 982-5968（吉川市配偶者暴力相談支援センター）

DV相談

平日午前9時から午後5時（祝日や年末年始は除く）
月・水・金は女性の専門相談員が応じます。
男性もご利用いただけます。
※DV：ドメスティック・バイオレンスの略。配偶者や内縁関係など親密な関係にある（過去にあった）パートナーからの暴力をいいます。



発行／吉川市 | 2023年3月発行

お問合せ／市民参加推進課 男女共同参画・文化交流担当

〒342-8501 吉川市きよみ野1-1 電話：048-982-9458 FAX：048-981-5392

メール：shiminsanka2@city.yoshikawa.saitama.jp